

校内の推進体制づくり



【ねらい】

GIGAスクール構想実現に向けた校内の推進体制づくりについて理解する。

【ポイント】

- ① 推進体制づくりに必要な3つのポイント
- ② 県内の取組状況から見た推進体制づくり
- ③ 推進体制づくりとICT活用について

【活動】各学校における推進体制を見直してみましょう。

推進体制づくりに必要な3つのポイント

各学校への取材などからわかる各学校の課題意識

～1人1台端末活用について抜粋～

- ・活用について各教員の裁量に任されている
- ・情報管理担当者の負担が大きい
- ・端末利用のルールと指導の徹底が必要

- ・情報共有が限定的で効率化できていない
- ・学年や学校間などで連絡調整できる仕組みがない
- ・地域や保護者との効率的な情報共有に課題がある

- ・教職員のスキルの差が大きい
- ・教科間でICT活用のばらつきがある
- ・ICT活用について学ぶ研修時間の不足

※2021年度 GIGA教材、研修講座アンケートから

3つのポイント

- 視点1 リーダーシップと組織体制の整備
- 視点2 校務の情報化と授業外での活用
- 視点3 組織的なスキル向上につながる研修の充実

県内の取組状況から見た推進体制づくり①

視点1 リーダーシップと組織体制の整備

1人1台端末活用を教育目標や研究テーマに位置づけ、推進体制を構築。

管理職や教務主任、研究主任のリーダーシップ

学校の実態に応じたICT活用についてのビジョンを普及

視点1の取組の整理

学校全体として前向きな取組と風通しのよい環境

校務分掌の再編や情報管理係の分担を意識

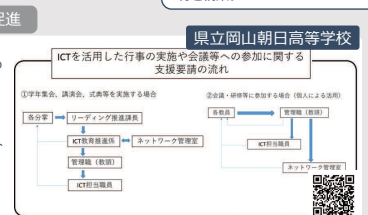
県内の取組状況から見た推進体制づくり①

視点1 リーダーシップと組織体制の整備

1人1台端末活用を教育目標や研究テーマに位置づけ、推進体制を構築。

■ 校内支援体制の整備 活用の促進

- ICT活用における支援体制の構築**
- ・4月当初は、学校全体におけるICTの活用について戸惑う場面もあったが、推進体制を構築してからは、スムーズな活用が行えるようになっている。
 - ・支援要請は、リーディング推進課に相談することからスタートし、ICT教育推進係、ネットワーク管理室（ハード系）とも連携し、取組を進めている。
 - ・各種配信のボタンに応じた準備と対応を行っている。



■ 校内組織の工夫 連携の促進

- 校内組織の工夫で、効率化と活性化を実現**
- ・技術面から支援する『教務課情報係』、授業改善から支援する『教務課企画係』を設置し、各年次2名ずつを配置して強化したことで、学年間の情報共有がやりやすくなり、円滑に業務が進行するようになった。また、転勤などで担当がいなくなることによるトラブル発生リスクが軽減された。
 - ・年度当初に自由参加の形で“自主研修会”を開催した。基本的なChromebookの操作から、授業実践の紹介まで、丁寧に説明しており好評だった。また、併設する中学校の先生も多数参加することができた。



県内の取組状況から見た推進体制づくり②

視点2 校務の情報化と授業外での活用

業務を効率化し負担を軽減することで働き方改革につながる。効果的な情報共有を実現する。

ペーパーレス化や集計作業の効率化によるメリットの共有

効果的な情報共有の恩恵を体験し、効率のよい仕組みを整備

視点2の取組の整理

授業の周辺部分の活用から実践し自信をつける

学校全体で利用し、活用のコツを互いに教え合う風土を構築

県内の取組状況から見た推進体制づくり②

視点2 校務の情報化と授業外での活用

業務を効率化し負担を軽減することで働き方改革につながる。効果的な情報共有を実現する。

■ 情報共有と可視化 情報の共有

- 職員朝礼も時間短縮。連絡事項をドキュメントで共有し、いつも見える、書き込める。**
- 職員全員がアクセスできる共有ドライブを作成し、ドキュメントを使用して職員朝礼を行っている。ドキュメントには、連絡事項等を打ち込むことだけでなく、共有したり、資料のリンクを貼り付けたりするなどしており、効率のよい仕組みを整えている。



■ 情報発信とSNSの活用 情報の発信

- 積極的な情報発信**
- 校内の取組や様子について積極的な情報発信を行っている。また、寄宿舎を持つ支援学校として保護者からも情報発信へのニーズが高い。学部間で分担し、学校の様子については、ホームページ、ブログ、Facebook、メルマガジン（要登録）で、毎日昼夕の給食のメニューについてはTwitterで紹介している。



県内の取組状況から見た推進体制づくり③

視点3 組織的なスキル向上につながる研修の充実

活用スキルの差を埋める。ICT活用指導力の育成。

教職員のニーズや児童生徒の課題に即した研修

OJTを活用するなどの人材育成の一環としての研修

視点3の取組の整理

授業実践を学校全体で共有し活用の幅を広げる

目的に応じた、短時間で効率的な研修形態や資料の工夫

県内の取組状況から見た推進体制づくり③

視点3 組織的なスキル向上につながる研修の充実

活用スキルの差を埋める。ICT活用指導力の育成。

■ 学校のニーズに即した研修 目的に応じた研修

- 課題に即応する校内研修の実施**
- ・ICTの利用に関して日々の先生方の困り感を吸い上げ、校内で研修ができるように準備をし、タイムリーな研修を全教職員に行っている。同僚が自分の工夫を講師として広めることを基本としている。
 - ・5月に、生徒の学びを止めないため、教職員全員を対象とした説明動画を作成する研修を実施した。1人1台端末を活用した、すぐに活用できる内容で、学校を休んでいる生徒へ授業動画を配信するなどの活用が進んでいる。



■ 授業改善への取組 全体共有で授業改善

- 校内の取組を定期的に共有することで、自身の授業等へ活かせる仕組みづくり**
- 「使っていく」ことを厭わないために、終礼等の短い時間を活用して実践紹介し、共有する時間を設けている。時間をかけることなく、情報を全体で共有することは、授業で活用するヒントとなり、有効である。また、学期に1回程度期間を設け、自身の授業での取組を表に打ち込み、まとめている。

学年	取組	効果
1年	1人1台端末活用	授業内容の共有、資料の共有、授業内容の共有、授業内容の共有
2年	1人1台端末活用	授業内容の共有、資料の共有、授業内容の共有、授業内容の共有
3年	1人1台端末活用	授業内容の共有、資料の共有、授業内容の共有、授業内容の共有
4年	1人1台端末活用	授業内容の共有、資料の共有、授業内容の共有、授業内容の共有
5年	1人1台端末活用	授業内容の共有、資料の共有、授業内容の共有、授業内容の共有
6年	1人1台端末活用	授業内容の共有、資料の共有、授業内容の共有、授業内容の共有

令和の日本型学校教育の構築

改革に向けた6つの方向性

- (1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する
- (2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する
- (3) これまでの実践とICTとの最適な相違を実現する
- (4) 個性主義・経理主義等を適切に組み合わせる
- (5) 感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保護する
- (6) 社会構造の変化の中で、持続的に魅力ある学校教育を実現する

(2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する

- 校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化を図るとともに、学校内外との関係「連携と分担」による学校マネジメントを実現
- 外部人材や専門スタッフ等、多様な人材が指導に携わることで学校の実現、事務職員の職務運営への参画機会の拡大、教諭等の役割の適切な分担
- 学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、相互に連携・協働して、地域全体で子供たちの成長を支えていく環境を整備
- 別々に行なってきた取り組みをつなぎ、学校が家庭や地域社会と連携し、社会とつながる協働的な学びを実現

「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- 加減算・マネジメントを充実させ、各教科等で育成を目指す資質・能力等を把握した上で、ICTを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成や、これまでできなかった学習活動の実施、家庭等学校外での学びの充実
- 端末の活用を「当たり前」のごとし、児童生徒自身がICTを自由な発想で活用するための環境整備、授業デザイン
- ICTの特性を最大限活用した、不登校や病欠療養等により特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供等
- ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備を両輪とした、個別最適な学びと協働的な学びの実現

引用：「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（草案）（中教審2022年9月）

GIGA スクール構想により配備される1人1台の端末は、シンプルかつ安価なものであり、この端末からネットワークを通じてクラウドにアクセスし、クラウド上のデータ、各種サービスを活用することを前提としている。このため、学校内のみならず学校外とつながるネットワークが高速大容量であること、地方公共団体等の学校の設置者が整備する教育情報セキュリティポリシー等において、クラウドの活用を禁止せず必要なセキュリティ対策を講じた上でその活用を進めることが必要である。

また、小学校、中学校段階のみならず、多様な実態を踏まえつつ高等学校段階においても1人1台端末環境を実現するとともに、各学校段階において、端末の家庭への持ち帰りを可能とすることが望まれる。さらに、数年後に迎える端末の更新については出来るだけ早急に関係者間で丁寧な検討を行っていくことが必要である。

その際、1人1台の端末環境を生かし、端末を日常的に活用することでICTの活用が特別なことではなく「当たり前」のごとし、ICTにより現実の社会で行われているような方法で児童生徒も学ぶなど、学校教育を現代化する必要がある。児童生徒自身がICTを「文房具」として自由な発想で活用できるような環境を整え、授業をデザインすることが重要である。

教育の情報化に関する手引（追加補）の概要

令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（草案）（中教審2022年9月）

令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（草案）（中教審2022年9月）

令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（草案）（中教審2022年9月）

令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（草案）（中教審2022年9月）

土台

引用：文部科学省（「教育の情報化に関する手引（追加補）（令和2年6月）」）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

教育の情報化に関する手引（追加補）令和2年6月

第8章 学校及びその設置者等における教育の情報化に関する推進体制

「教育の情報化を進めるためのリスト」の学校の役割

- 1 教育の情報化のビジョンの普及
- 2 推進体制の整備
- 3 情報化による授業改善
- 4 校務の情報化
- 5 人材育成・活用

令和の日本型学校教育の取組内容とつながる

統合的な視点での取組

学習指導要領に対応する授業改善

教育の情報化の推進

GIGAスクール構想の実現

Copyright 2021 © Okayama Prefectural Education Center

推進体制づくりの3つのポイント

- 視点1 リーダーシップと組織体制の整備
- 視点2 校務の情報化と授業外での活用
- 視点3 組織的なスキル向上につながる研修の充実

教育の情報化のビジョンの普及

学校が抱えている課題解決にICTを活用

主体的・対話的な深い学びの視点の授業改善

1人1台端末の日常的な活用

教職員の意見

学校情報化認定 参考

GIGAスクール構想対応チェックリスト更新版

情報化の推進体制

※チェックリスト一部抜粋

Copyright 2021 © Okayama Prefectural Education Center

本研修で使用したデータは、「おかやまICT活用実践事例集」に掲載

各冊子5つの学校の事例を紹介しております

おかやまICT活用実践事例集

～主体的な学びを充実させるICT活用～

全体版1

全体版2

全体版3

最新情報は、随時当センターのHPをご確認ください

岡山県総合教育センター



おかやまICT活用実践事例集



Copyright 2021 © Okayama Prefectural Education Center